

のレビュー”「ハードワイヤードですか?」(Are We Hardwired?) by Clark and Grunstein (2000) (2019年改訂レビュー)

Michael Starks

抽象

これは、行動に関する遺伝子/環境相互作用の優れたレビューであり、少し日付が付いているにもかかわらず、簡単に価値のある読み取りです。彼らは遺伝学が行動に与える圧倒的な影響を示す双子の研究から始まります。彼らは、家庭環境を共有することは行動にほとんど影響を及ぼさないという事実を拡張し要約し、養子が無作為に選ばれた人々と同じくらい義理の兄弟や姉妹と同じように成長するという事実を拡張し、要約するジュディス・ハリスのますますよく知られた研究に注意してください。彼ら(そして行動遺伝学について議論するほぼすべての人)が注意できない基本的なポイントの1つは、私たちの性格のすべての基本を含む人間の行動普遍的な何百人(あなたの視点に応じて数千人)が、正常にばらつきのない私たちの遺伝子によって100%決定されるということです。誰もが木を木として見て、石ではなく、食べ物を求めて食べ、怒りと嫉妬などを求めます。だから、彼らがここで主に話しているのは、環境(文化)が外見ではなく、様々な形質が示される程度にどれだけ影響を与えるかです。

最後に、彼らは、私たちとすべての生物が自然の優生学の産物であり、医学、農業、文明全体で自然選択を打ち負かそうとする試みは、これを続ける社会にとって悲惨なことに注意せず、通常の政治的に正しい方法で優生学について議論しています。すべての概念の50%、または約1億/年は、母親が気づかずに、ほぼすべての早期自然流産に終わる。この欠陥遺伝子の自然なカリングは進化を促進し、私たちを比較的遺伝的に健全に保ち、社会を可能にします。異性原性は文明を破壊するのに十分であるが、人口過剰は最初にそれをdする。

現代の2つのシス・エムスの見解から人間の行動のための包括的な最新の枠組みを望む人は、私の著書「ルートヴィヒ・ヴィトゲンシュタインとジョン・サールの2nd edの哲学、心理学、ミンと言語の論理的構造」を参照することができます。私の著作の多く興味がある人は、運命の惑星に関する「話す猿-哲学、心理学、科学、宗教、政治」を見ることができます - 記事とレビュー2006-2017' 3rd ed (2019) その他。

これは、行動に関する遺伝子/環境相互作用の優れたレビューであり、少し日付が付いているにもかかわらず、簡単に価値のある読み取りです。

彼らは、遺伝学が行動に与える圧倒的な影響を示す双子の研究から始まります。彼らは、家庭環境を共有することは行動にほとんど影響を及ぼさないという事実を拡張し要約し、養子が無作為に選ばれた人々と同じくらい義理の兄弟や姉妹と同じように成長するという事実を拡張し、要約するジュディス・ハリスのますますよく知られた研究に注意してください。初期の環境、おそらくピアインタラクション、テレビなどからパーソナリティ(変動の50%)に多くの影響がありますが、私たちは本当に知りません。

彼らは、最も初期の真の動物、原虫の行動の遺伝学を要約し、私たちの行動の根底にある遺伝子やメカニズムの多くがすでに存在していることに注意してください。潜在的な仲間の遺伝子を同定することには強力な選択的利点があり、さらには原虫はそのようなメカニズムを有する。人々が異なるHLAタイプの仲間を選ぶ傾向があることを示すデータがありますが、メカニズムはあいまいです。彼らは、私たちがボモロナス器官を介してフェロモンと無意識に通信するという様々な証拠を提示し、これは臭いニューロンによって媒介されていません。

1つの章は、それが原虫と私たちと多くのメカニズムと遺伝子を共有しているという事実を、進化の極端な保守主義のために、線虫C.エレガンスの生物学をレビューします。いくつかのヒト遺伝子は、私たちの中でその機能の明確な保存とそれに挿入されています。

さらに、それらは、より高い生物と同様の方法で遺伝子によって制御される長期および短期記憶のメカニズムと思われるものを示す。

彼らは、酵母やフルーツフライの概日リズムの概日リズムの調節を、より高い動物や植物のリズムに対する一般的な類似性に注意する。クリ-1とクライ-2の両方のクリプトクロム遺伝子がフルーツハエ、マウス、ヒトに存在し、感光体系がレティナ以外の多くの身体細胞で活性であることが示されており、研究者は私たちの脚に輝く光から概日リズムを引き起こすことさえできています!

有名なナメクジアプリシアとcAMPとカルモジュリンシステムに関する作業の簡単な調査の後、彼らは人間の神経伝達物質に関するデータをレビューします。侵略に関する章は、低セロトニンマウスの衝動的な攻撃性と、一酸化窒素の化学を吹き飛ばすa突然変異/薬物の積極的な行動への影響を指摘する- 最近、すべての驚きに、主要な神経伝達物質または神経調節剤として同定される。

消費に関する章では、彼らはレプチンの現在よく知られている物語と食物摂取量の調節におけるその役割を述べています。その後、性的行動の遺伝学の要約。

彼ら(そして行動遺伝学について議論するほぼすべての人)が注意できない基本的なポイントの1つは、私たちの性格のすべての基本を含む人間の行動普遍的な何百人(あなたの視点に応じて数千人)が、正常にばらつきのない私たちの遺伝子によって100%決定されるということです。誰もが木を木として見て、石ではなく、食べ物を求めて食べ、怒りと嫉妬などを求めます。だから、彼らがここで主に話しているのは、環境(文化)が外見ではなく、様々な形質が示される程度にどれだけ影響を与えるかです。

また、進化心理学、認知心理学、社会学、人類学、行動経済学の一部など、人間の行動を研究する非常に活発な分野もあり、行動に鮮やかな光を当てており、自発的な意識やコントロールがほとんどない程度に自動で無意識であることを示しています。著者らは生物学に偏り、大きな欠陥である。

最後に、彼らは、私たちとすべての生物が自然の優生学の産物であり、医学、農業、文明全体で自然選択を打ち負かそうとする試みは、それに持続する社会にとって悲惨であることに注意せず、通常の政治的に正しい方法で優生学について議論します。すべての概念の50%、または約1億/年は、母親が気づかずに、ほぼすべての早期自然流産に終わる。この欠陥遺伝子の自然なカリングは進化を促進し、私たちを比較的遺伝的に健全に保ち、社会を可能にします。しかし、人口過剰が異性原性がチャンスを得る前に世界を破壊することは明らかです。